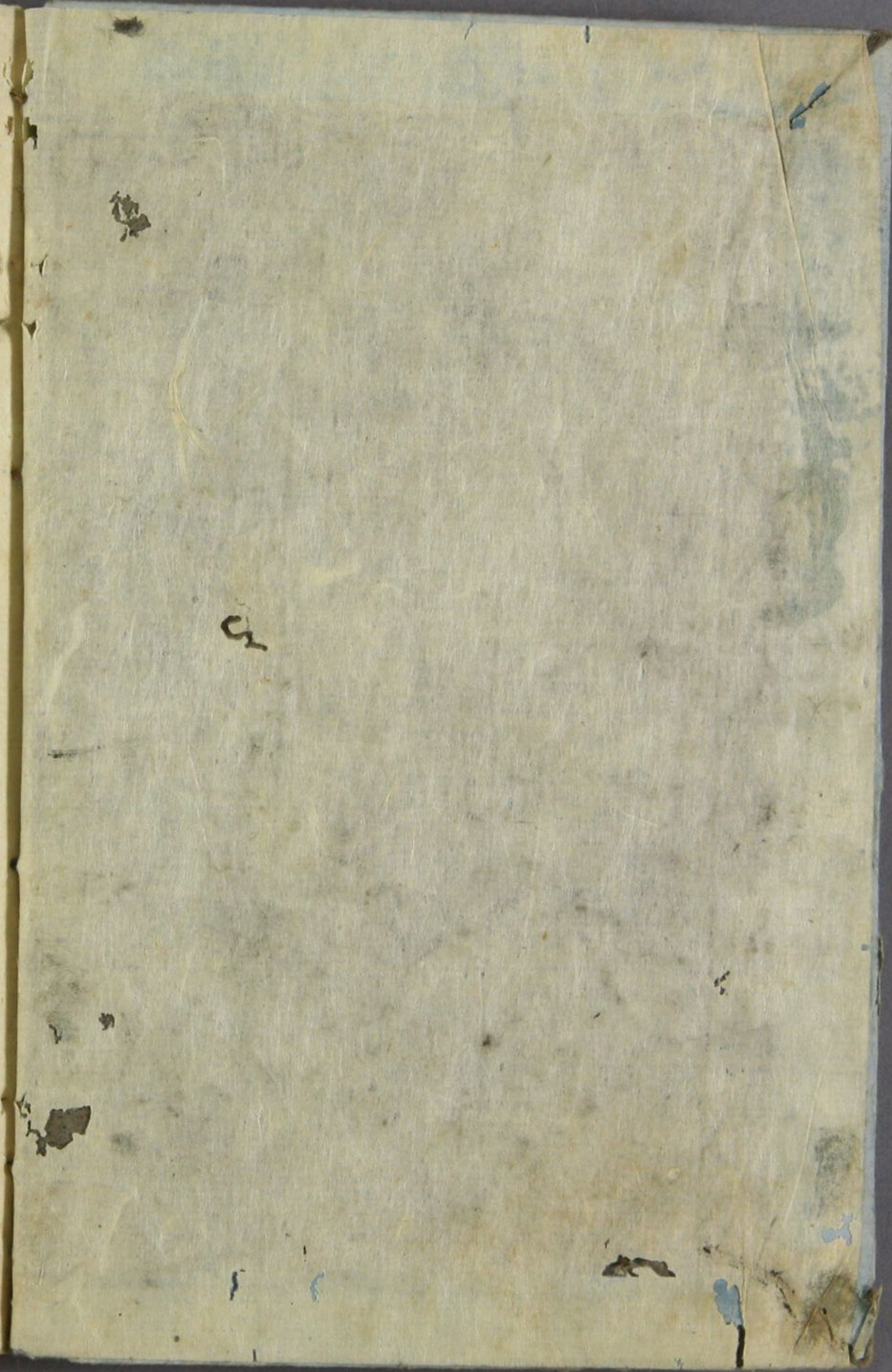
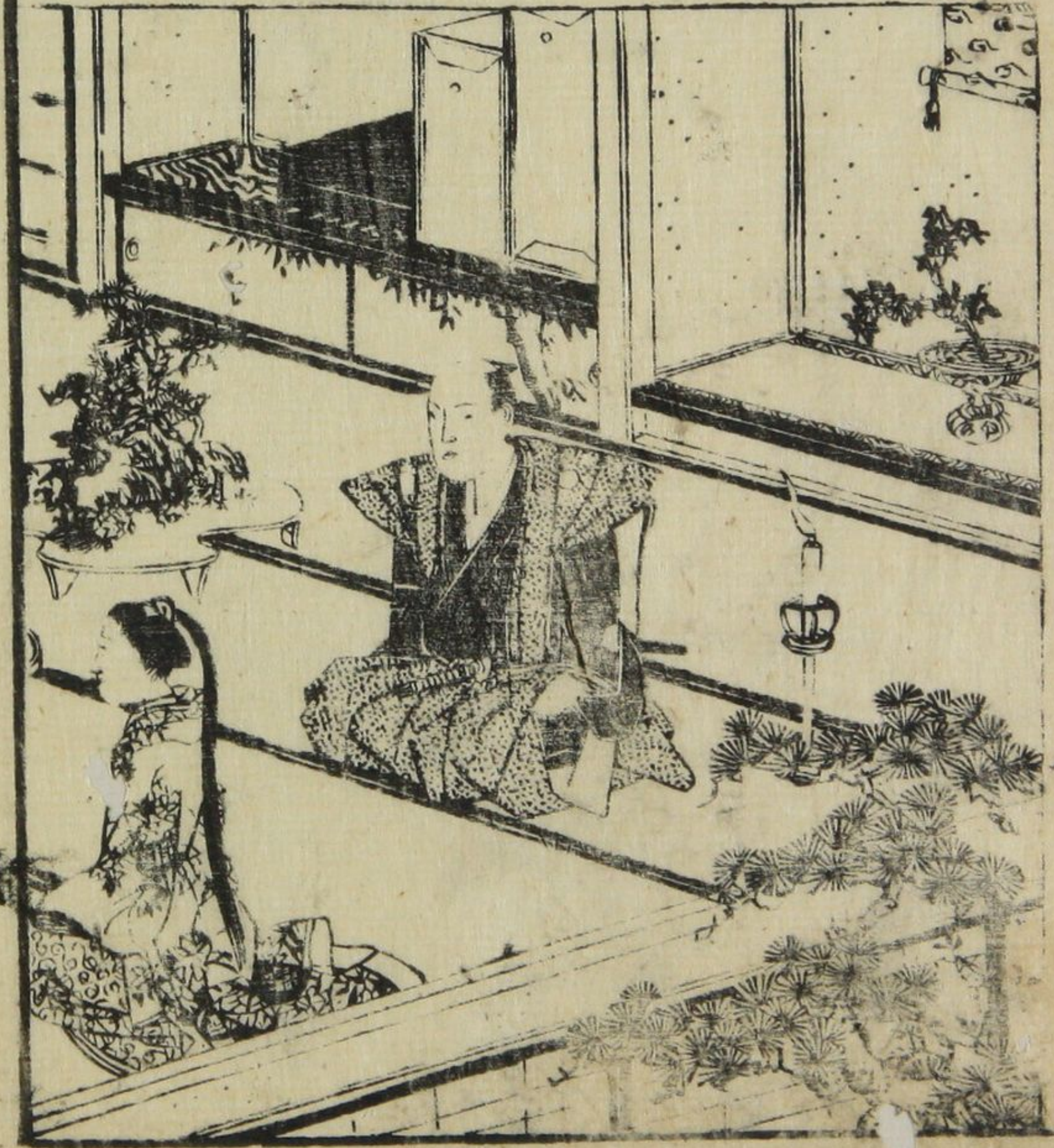
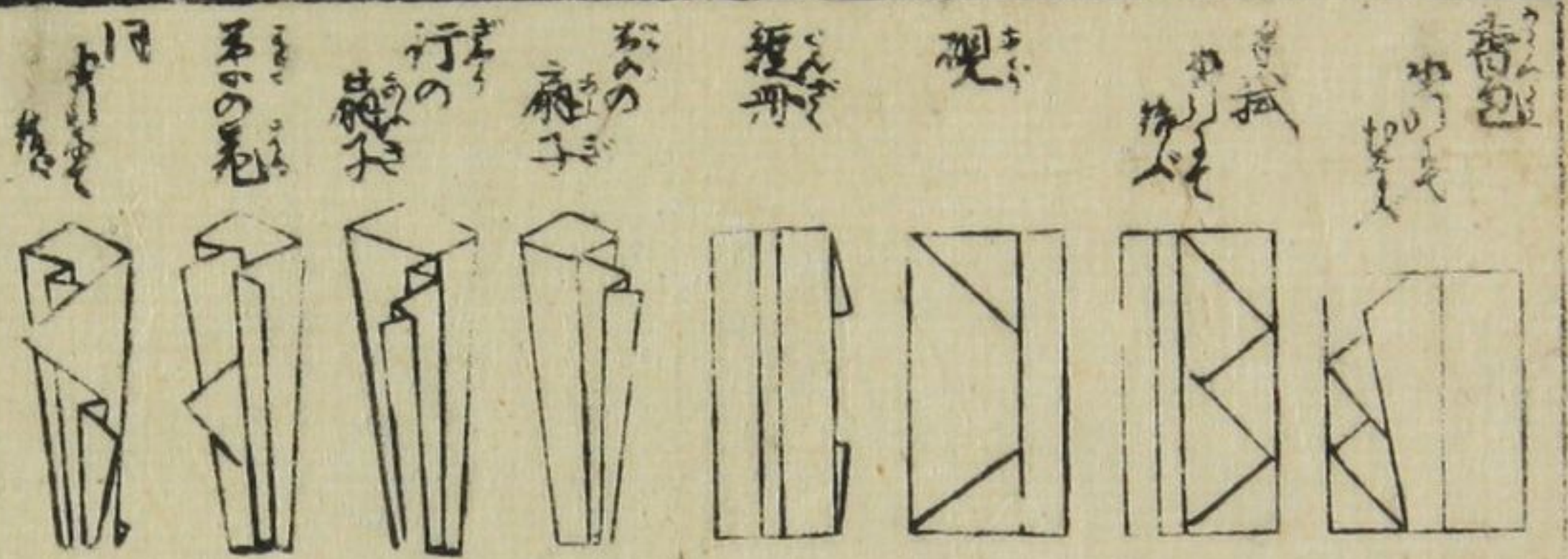
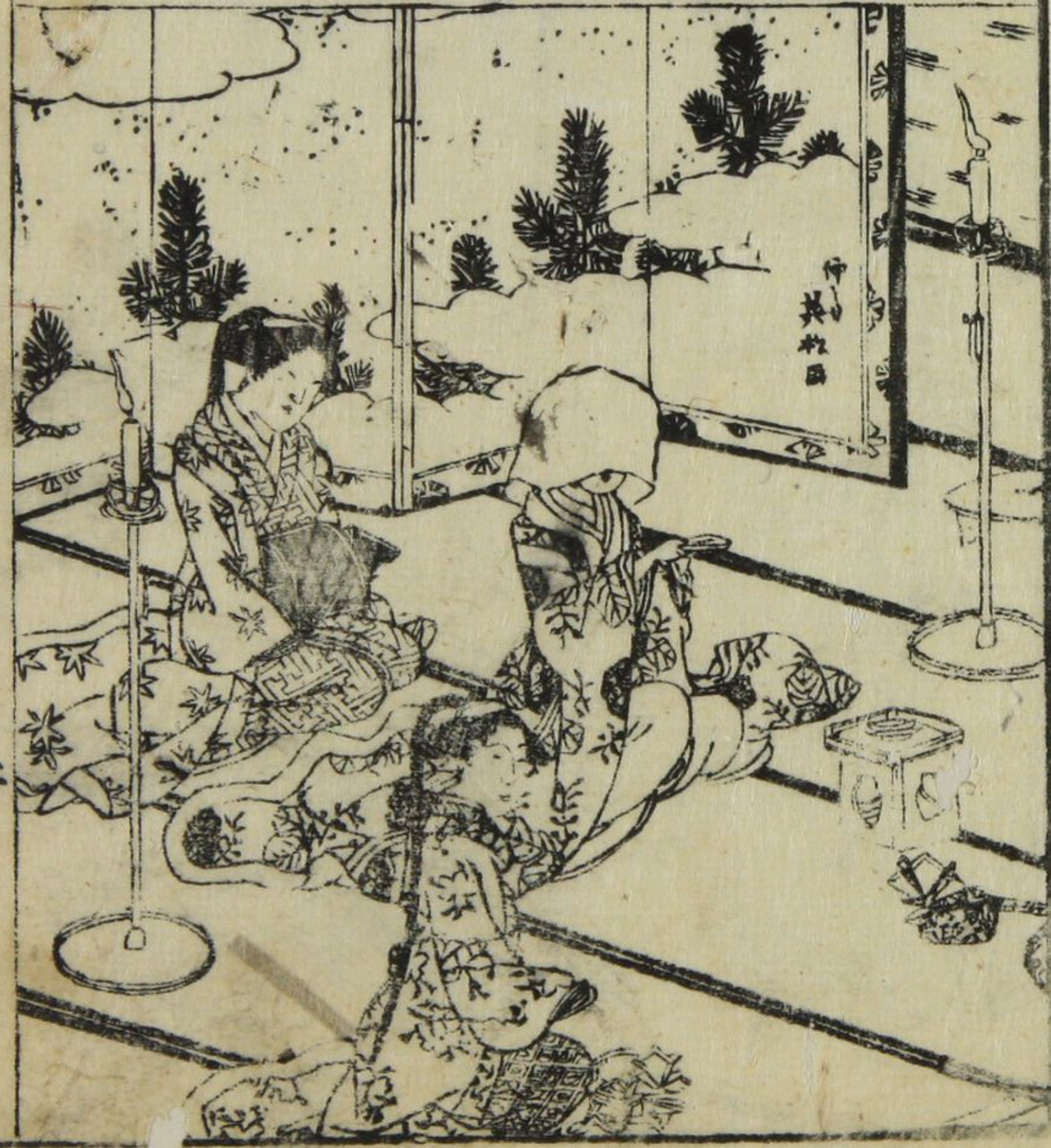
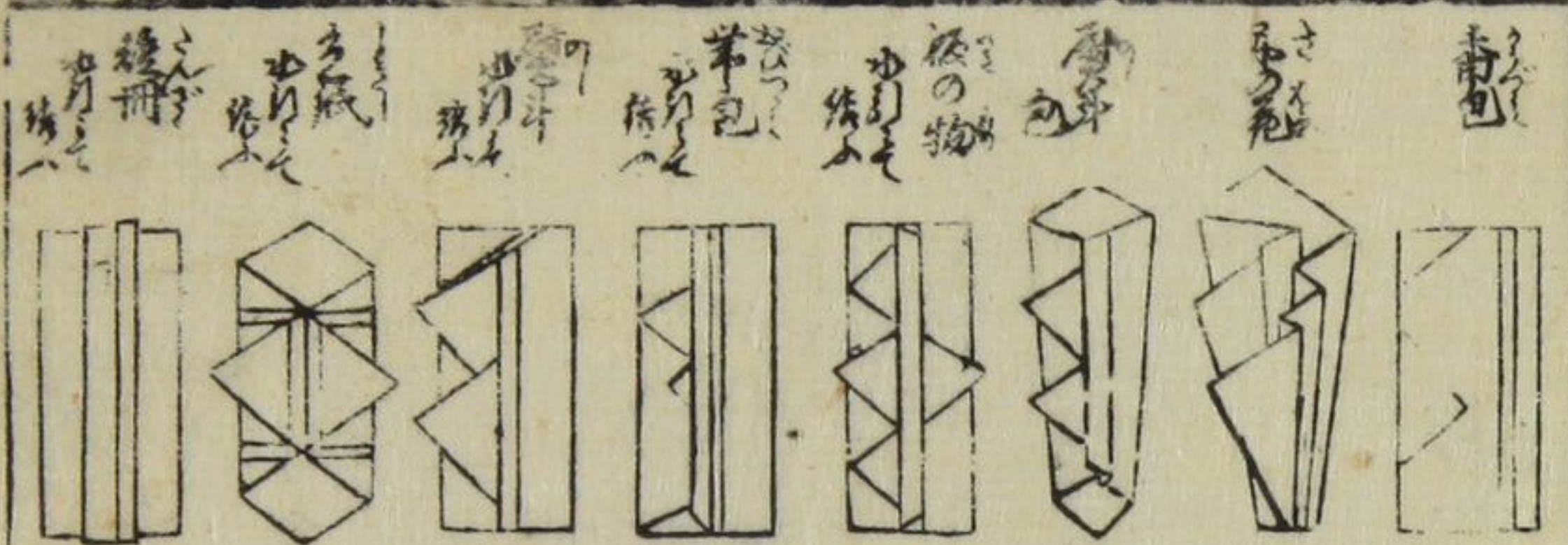


女庭訓往來



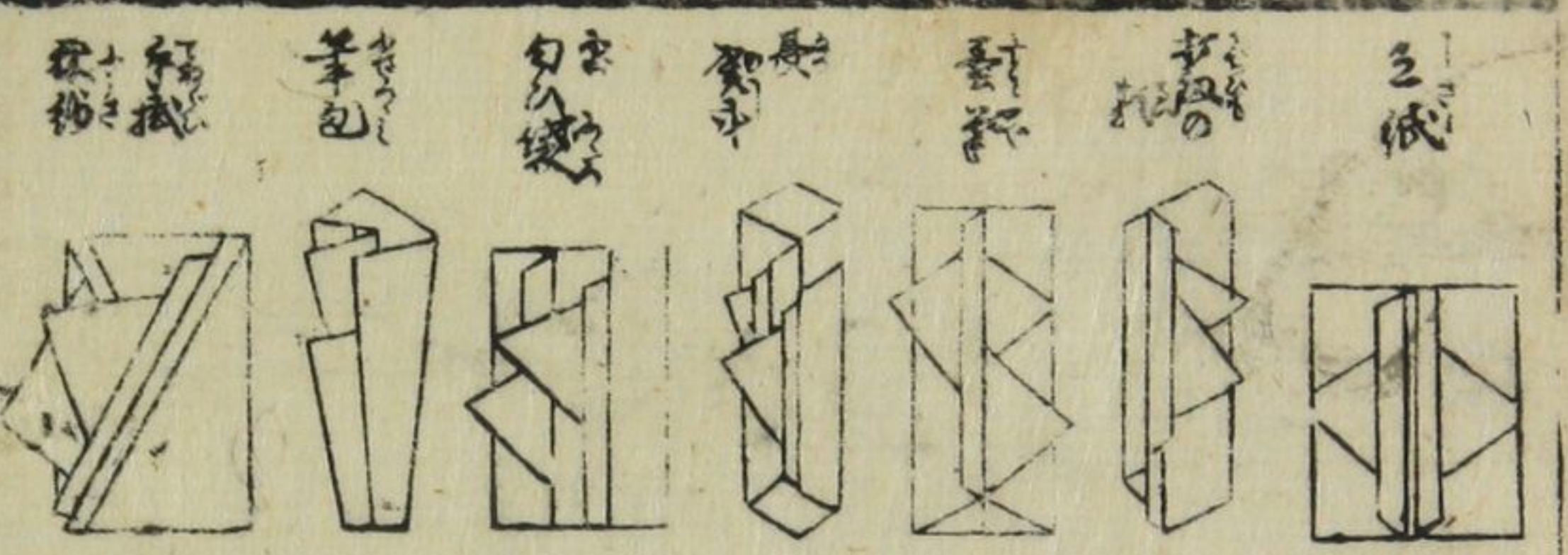
小松流打形
 男練
 女練
 柳
 竹
 松
 梅
 蘭
 菊
 桐
 椿
 桜
 桃
 梨
 杏
 橘
 柿
 栗
 松
 竹
 梅
 柳
 桐
 椿
 桜
 桃
 梨
 杏
 橘
 柿
 栗







女庭訓往来
 幸乃始れ心伝ふのあまの
 ら庭をいそがせぬかたは
 とい先元之れ初子月
 のつとしくわの庭は
 庭よ小松花より思はの



都治往來 船橋と平塚
 下ふふのちや
 舟のくちや
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し

舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し

舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し

舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し
 舟は浪高し

のちや富源
 津のよき藤
 けしきもあはれ
 とらふまじの根



花をいひけり
 り成りぬる
 山月よあけ
 なくちい
 だもいひ
 しもいひ

ちのたき
 櫻小か
 系やゆ
 井の若
 ちのたき
 櫻小か
 系やゆ
 井の若
 ちのたき
 櫻小か
 系やゆ
 井の若

らせ
 けり
 のみ
 隆
 お納

わはゆも神れ
まはちちらま
れ松乃ををよ
くも清田火
井川
ひら今まき
照くま光る月
坂小娘い入異
掛のいんて後
村よ凡れ書

おれおれおれ
おれ乃ら
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ

おれ乃おれ
淡松のえの事
久しきおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ

おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ
おれおれおれ



とてあはれ
はさしあはれ
とてあはれ
とてあはれ
とてあはれ

若くもあはれ
の若くもあはれ
結ぶ河解の
の若くもあはれ
の若くもあはれ
の若くもあはれ
の若くもあはれ
の若くもあはれ

仍法を離あはれ
きとあはれ
くあはれ
女は及はれ
遠をたはれ
はりりきくはれ

日長若くもあはれ
きとあはれ
くあはれ
女は及はれ
遠をたはれ
はりりきくはれ

さしへく世中^{よそ}花盛^{はなも}おどろ
たしむた取^{とり}ら女^{おんな}おどろくは
中^{ちゆう}くおのひ終^{はつ}くゆましく人^{ひと}をさ
もも雲^{うも}井^いの庭^{にわ}よ志^{こころ}くさる
おどろくは女^{おんな}おどろくは
まくまうたか系^{けい}あよあさけさ

ふれど東^{ひがし}山^{やま}乃^の花^{はな}つる人^{ひと}
さふかしくぬあけあめゆ
もべおひおちり^{ちり}百^{ひゃく}立^たくら
同心^{どうしん}ゆしくいひつらうと竹^{たけ}
筒^えあふはこさしいま
く殺^{ころ}べく人^{ひと}。短^{たん}冊^ふをどく

清のせみづへんあふうしこ

如月廿三日

紀伊

小少好庵

中うせり入

清まよのつちへんこふひくおろの
清まよのつちへんこふひくおろの
清まよのつちへんこふひくおろの

かごうくそくふのうも
新登よぬう一電おけふは
もち物風とやううよ。喜あ
もそだちからけうの権きれい
あやいけいのもをかく花き
きんさくへん又らおれおん

とてくあのおのるれ月もふり
ふりまきまきくば行時もの
きしはるまきまき山伏さく
夜あまのいれれる。花の母あ
果人ぐ秋よあけのつゆみ
いざかひまきまきまきまき

あの人れまきまきくば
裏山吹柳のあり物なまの
まきまきまきまきまき
まきまきまきまきまき
あまのいれれる。花の母あ
果人ぐ秋よあけのつゆみ
いざかひまきまきまきまき

漢 波 ね ち

御仁國の後文のちのまひもを
くあまりゆたん。徳もあ下りの
道みちまり。却かへつはあまりく
名所なごころありく。四境よごうまりく。まり沙ら跋はつ
れもちまりく。雲林うんりんのまりらちら
うまりらちら。えりくね

夏なつぼりりりれれのまりらちら
玉たまをみるる。廊らう波は後ごりりるる
けいふまちちささすすがが田でん舎しゃ
泉せんをみるる。小せう紫し植ちふふどど
そそららちちのまりらちちるる
ああままりりのまりらちちるる

せりやり水れうげ沸くもつ死
おどい浦ぶく玉の控た
くあき福さいほくしんみん
乃あまごいあがりひ延喜天
替れ登の四代まわしそと悦
ひぬるとまそくくいよく家

門けりもれ子孫るがくが
とせうまかひりく宛
泳生み
まふれもこのと茶
行もりくくくね様門出
せしあちちのてとて

勢方回乃長橋うちり。あし
れき根よかふる。とよ山
と見えわさし。野原の玉川
あつぬ。はら。あけまど
あつぬ。あつぬ。あつぬ。
あつぬ。あつぬ。あつぬ。

野原に河津をわさる。藤
系しけく。あつぬ。あつぬ。
の境心年。はのま。あつぬ。
乃。あつぬ。あつぬ。あつぬ。
せ。あつぬ。あつぬ。あつぬ。
あつぬ。あつぬ。あつぬ。

志^しり^りけ^けひ^ひ井^いも^も大^{だい}和^わ山^{さん}科^か
 志^し松^{しょう}室^{むろ}の^のみ^み西^{せい}の^の仲^{ちゆう}集^{しゅう}大^{だい}と
 とも^{とも}の^の智^ち者^{しゃ}の^の同^{どう}朋^朋教^{きやう}多^たも^もか^かひ
 あ^あの^の心^{しん}修^{しゆ}の^のよ^よせ^せん^んの^の時^{とき}大^{だい}日^{にち}
 照^{てう}く^く万^{まん}民^{みん}の^の心^{しん}を^をい^いは^はる^るに^にあ^あら^らは^はす
 う^うき^きし^しけ^けれ^れば^ば仲^{ちゆう}集^{しゅう}の^の心^{しん}を^をい^いは^はす

山^{さん}科^かを^をい^いは^はす^すに^にあ^あら^らは^はす
 出^でる^るま^まの^の心^{しん}を^をい^いは^はす^すに^にあ^あら^らは^はす
 不^ふも^も山^{さん}科^かの^の心^{しん}を^をい^いは^はす^すに^にあ^あら^らは^はす
 法^{ほふ}の^の心^{しん}を^をい^いは^はす^すに^にあ^あら^らは^はす
 心^{しん}を^をい^いは^はす^すに^にあ^あら^らは^はす

抄^{せう}りてせむ紙^{かみ}笑^{わら}しりたるに
 うらむとほむ新^{あらた}事^{こと}くしれ流^{なが}
 水^{みづ}より人^{ひと}をけふりく種^{たね}かく
 天^{あま}流^{なが}の中山^{ちゅうざん}くもたれく不破^{ふわ}の
 美^み屋^やの板^{いた}むうも名^なはなかり
 の跡^{あと}えくもや任^{まか}めとぞ

を^をくも新^{あらた}志^{こころ}も古^{ふる}御^{おん}人^{ひと}が
 うらむとほむ新^{あらた}事^{こと}くしれ流^{なが}
 物^{もの}平^{ひら}日^ひふ民^{たみ}はく種^{たね}かく
 美^みの友^{とも}川^{がわ}もくもたれく新^{あらた}事^{こと}
 うらむとほむ新^{あらた}事^{こと}くしれ流^{なが}
 けいふひむとほむ新^{あらた}事^{こと}くしれ流^{なが}

とつや女の世にさへはなれ
うれ又まあびえんふふ
は。但ま人は女の乳と痛し
掃ら女もあはれと云ふ
りまのさあひり。親よはく
つふもりのさあひり。親よ

あでをさうつはさう
及ぬまをさうひり
物女袖びひり。同ふあそび
さうひり。廣大はさうひ
さうひり。さうひり

卯月十日
おん

長はゆる

はづろかたはけね
しほひもて日く
おゆいおる
おちおる
すむび

あゝあゝ大車い
かゝる色
はあゝあゝ
言物
柔順貞良

人ふにのちを〜
を〜
我まを〜
乃のふ〜

〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

あはれも程よもあらば。あはれは
はつひ時おふよお事。て
婦言は。はつひのりふも。て
よて人れんち。てぬぬぬ
のりふ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ

いさなり。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ

御書

三十五

て有るのまへに穴の

知りす。 長

たをどの

福年の四夜ぐりぐりの

十把の書三指もあま

この書もあま

あまの書もあま

らまの書もあま

りまの書もあま

ひつぎれもあま

みくおの書もあま

儀い。いぬもあま

あひのりく。海ららむやれ
神代よりいせれおひとあわれ
む。林風吹らぬんはあくらん。
九月と季れもても。嫁娶の
美をこころひいそまらりあくるに。
山河法ある海くんこあひのりく。

清ね渡をの事い海の本
く。似おのり作らりく。紐又
男も女もあつけ。修業
度。あつちかへん方家いあし人
おほくもとあつちかへんはあ田や
依竹やう。小笠原海くく。あひの

武家より用中少尉子に柳家の
太刀と巻のざりやう仕舞屋の
上の徳のたきりにゆる板系
瓶香合沈むと音画香を
種冊瓶中の徳乃戸柳の文
うんぎくやど入家は根の柳

柳子巻と巻巻柳入所押た丸
下乃徳戸柳の双葉をかど入
此より徳のさかへ又巻と巻小
すくくわくとも巻のたれ道具の
内然るんくくひくく復の巻
中の巻柳を麻れたたの巻

アウラ上の脛よさしひは元
結お遠葉おさくあつぎな
紙二平あふきみあめ
はあ葉のさしあやうびあ合
うすあれねごあよふすあ
下れ平の物しのがみさびあ

多洗太の内え合くすあ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ
あひ柳あささああああ

不^お方^かす^まある^ま今^いふ^ま家^かく^に
近^{ちか}く^なき^まの^まと^まの^まり^まの^ま家^か
易^{やす}人^{ひと}よ^まき^まく^まら^まぬ^まの^まか^から^かる^か
付^つ糸^{いと}一^{いつ}せん^{せん}ら^らし^して^て人^{ひと}よ^まを^ま
わ^わか^かる^るく^くの^のま^まの^のこ^こし^し

八月廿日 小がね

中^{ちゆう}は^はく^くの^のま^まの^のま^ま
み^みお^お月^{げつ}と^と祓^{はら}園^{えん}は^は盡^{じん}全^{ぜん}の^のま^ま
を^をお^お中^{ちゆう}に^にす^すり^りて^てあ^あま^まの^のま^まを^を
ら^らる^るか^かの^の後^ごの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
る^るか^かの^の後^ごの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
る^るか^かの^の後^ごの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
る^るか^かの^の後^ごの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

何^{あひ}と^ふおし^らげ^さき^あく^く
祇^さ園^{えん}舎^さら^もま^ひら^りぬ^ぬ
い^まれ^まあ^りく^くあ^ああ^あ
わ^さま^まだ^だい^いあ^あく^くく^く
う^う。え^ええ^えが^があ^ああ^ああ^あの^のえ^え
ま^まあ^ああ^あ川^がの^の境^境よ^よほ^ほあ^ああ^あ

の^の祇^さ園^{えん}舎^さら^もま^ひら^りぬ^ぬ
ま^まあ^ああ^あの^の比^ひ辺^{へん}の^の縁^縁
し^しこ^こあ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ
び^びら^らあ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ
あ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ
あ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ

林^{りん}燈^{てん}二^に日^{にち}

あ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ

赤丸内結
之復ハ人ニシテ
少梅モその心ハ
くおもひつるハ
そこり天ノ海ノ
何方ノ心ニ
目出キクハ

結ハ迹ニシテ
見侍人ノ心
由法ニシテ
人ハ其ノ心
海津モ心ノ
さあらりハ

ついでにせはひひしがみ十六代
清和天皇貞観十一年元正の
るありて天下泰平がまのり
なりんとまゝに山城のほ
うの母を法をこまひり
りたりし系後藤の英経は

神代より神南海より湯の港
流玉乃孫を后よせんそ
おつてまの時種民の系が
富多ひひまわがと
繁の佐平をなると後八
と屋く八の子れ神代か

後民が敵よいつをあらん一
乃やが成のけしき。患と結せん
とあよ事りきり。弟れ痛をほ
くりく。後民が来の子孫あり
とつんと。夜痛の海流のむを
へ。こののせゆへり。今ふむ

くは条系極く。衆れ信
ともの。は。後民が来のゆ。ゆ
り。れ。と。春。属。れ。わ。る。あ。る。八。万
甲。十。六。百。あ。り。神。あ。る。と。ん。次
よ。洗。ふ。し。き。を。後。と。四。捕。へ。り
伴。ら。ま。ふ。さ。と。し。て。お。く。わ。る。ひ

庭にも下りは果はたさるるのさるは
 ららひひああききははりりののちちののひひゆゆれ
 春はららささくくののちちののひひゆゆれ
 空はららささくくののちちののひひゆゆれ

ああのの月づ二に日び
 小こ事じ相あひひああららむむ
 毎ま日に付く

秋あききののははららののああききのの風かぜ
 春はららささくくののちちののひひゆゆれ
 庭にも下りは果はたさるるのさるは
 ららひひああききははりりののちちののひひゆゆれ
 春はららささくくののちちののひひゆゆれ
 空はららささくくののちちののひひゆゆれ

より芳の葉紙を死く所を
と手向の琴二張とある一張の
しらと味よ一張を長よと
をくさつといふ儘の紙入で星
糸をうけつる又竹と七尺の
より庭よまきくたたよ糸紙

七節づつうしけり並紙付はし
糸よ片が糸とむくおつま
火とんふあまうらあひせ
たさ物とて死ねまじ。織女乃
神とあひひてせめと。そふ
あつ海と海ありつく程あり十

夕日よふあはれ人よかへるるるるる
 魂繫すまじきしつゝあはれあはれ
 ありあはれまじきしつゝあはれあはれ
 流沙をよぶるあはれあはれあはれ
 しつゝあはれあはれあはれあはれ
 人乃あはれあはれあはれあはれ

初い笑あはれあはれあはれあはれ
 うん。夕月秋のんごあはれあはれ
 笑あはれあはれあはれあはれ
 文月初日
 大東

残あはれあはれあはれあはれ
 すけあはれあはれあはれあはれ

庚 庚

夜ひし。威鬼おどろ乃なふおるちしと
ふあふくくんん佛ぶつふふままくくんんごごららああひ
ららははらら。ゆゆれれししととああららしし
ししもも越こええたたららししひひんんのの先せん
祖そ伝でんままつつりりりり。焚たきののささゆゆままがが
香かととくくんんくく燃もをを吹ふくく鬼おにれ

たたままししひひとと清きよトト酒さけとと持もつつてて
鬼おにれれままししひひとと清きよトト酒さけとと持もつつてて
たたくく燃もれれままししひひとと清きよトト酒さけとと持もつつてて
ままれれくくままししひひとと清きよトト酒さけとと持もつつてて
人ひとふふつつててふふままつつるるごごととくくままるる。殊ことの
ふふ一いちままららああままはは。鬼おにれれままししひひとと清きよトト酒さけとと持もつつてて

交まじ仏ぶつ天てん感かん應おう化けたたままのの人ひとの
かかららとといいくく神かみがが仏ぶつににななららぬぬ
わわらられれどどとと信しんじじぶぶんんとと縁えん
ししのの縁えん向むかひああるるのの家けののままににはは
月つきののししほほろろふふくくとと暮くるるはは十じゅう二に月げつ
乃すなはちち毎まい日にちおおくく又またとと南なん無むろろううののくく

庚
庚
庚

三
三
三

ゆゆづづのの業ごう盡じん染せんとと染せんてて仏ぶつにに信しん
おおははるるとといいくく今いまもも亦またたたとといいくく
おおははるるにに終おひつつとといいくくああままひひ
先せん世ぜとといいくくとといいくく本ほんにに信しんじじぶぶんん
とといいくく影かげ射あるる乃すなはちち中ちゆうににはは
産うむむとといいくく

庭 庭

毎月 毎 日 すけの 毎

太 東 乃 の 毎

ハ 御 の 四 夜 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

柳 御 持 一 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

長 久 一 毎 ごとく 毎 毎 乃 乃 毎

計 毎 ごとく 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

乃 乃 夜 の 内 ごとく 毎 ごとく 毎

面 乃 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

う げ 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

ま ごとく 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

ら 乃 乃 夜 乃 毎 ごとく 毎

毎 乃 乃 毎 ごとく 毎 ごとく 毎

三十三

ら 你^きの 換^か来^き音^ね 一^い来^きは 不^ふ
く 女^にま^まふ^ふお^おは^はく^くち^ちの^の 依^よ
致^ちを^をく^くん^んの^の 同^{どう}心^{しん} 於^おこ^こま^まの^の 小^こ
癪^{しやく}よ^よの^の け^けら^らふ^ふわ^わの^の 意^いを^をた^ため^め
清^{せい}ひ^ひら^らん^んと^と 通^とり^り け^けの^の
う^うく^くあ^あお^おが^がし^し

南^{なん}島^{とう}歌^か 日^ひ 女^に

左^さ来^きの^の 結^{むす}ぶ^ぶの^の ち^ち

あ^あの^の 心^{こころ}の^の け^けら^らふ^ふわ^わの^の 意^いを^をた^ため^め
く^く 女^にま^まふ^ふお^おは^はく^くち^ちの^の 依^よ
致^ちを^をく^くん^んの^の 同^{どう}心^{しん} 於^おこ^こま^まの^の 小^こ
癪^{しやく}よ^よの^の け^けら^らふ^ふわ^わの^の 意^いを^をた^ため^め
清^{せい}ひ^ひら^らん^んと^と 通^とり^り け^けの^の
う^うく^くあ^あお^おが^がし^し

度
度
度

お〜さ〜る〜れ〜く〜子〜様〜の〜む〜く
美〜も〜薬〜山〜の〜ふ〜紅〜葉〜が〜漸〜色
あ〜り〜る〜ま〜。山〜毒〜信〜ら〜る〜ま〜り〜る〜を
中〜友〜。又〜林〜の〜野〜の〜ま〜ら〜ん〜ぎ〜ま
あ〜ん〜。深〜き〜く〜の〜ま〜ら〜ん〜あ〜
い〜ま〜あ〜ん〜ま〜ら〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜

び〜く〜ま〜ら〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜
ひ〜ま〜ら〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜
ま〜ら〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜
あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜
夕〜陽〜の〜影〜が〜ま〜ら〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜
あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜あ〜ん〜

度

度
度
度

度 度 度

うのきる庵くひりて友

素月碧

あめのうら

糸如反

いしやうきくせひのくさひ
いしやうきくせひのくさひ
いしやうきくせひのくさひ

うけそふ後の世れらね
の介はいさだのしおひ
いさだのしおひのしおひ
友れ形ひめくひ
名月九日よふ菊
くさひのくさひ

かの。かのの上人。あつて。しが。あつて。
 兼のよよ。練と。あつて。あつて。あつて。
 又。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 行。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 兼。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 せん。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

かつ。びく。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 かん。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 兼。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 い。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 かん。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 かん。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

りんがーぶらぶらる。又来十言ハ。
Spleen
 かろえなるし。My My
 思も女こAppetitus ちよもろりき。おと
 きんこい。ゆめ華よと。又心のえね
 此目もMy 同るもの。そのけりるの属
 ぎし。ゆくば。夜ハ。つら。ゆ。と。せ。ん。れ。く

度 度

可 十 六

いし。つ。ろ。り。い。ち。り。り。の。あ。け。ら
 つ。の。お。お。神。仏。も。本。る。お。お。
 や。ぐ。く。と。や。う。ん。女。お。の。の。祿。が。ひ。ま。え
 め。の。心。華。よ。や。志。海。一。の。あ。ら。ん。と。
 う。け。は。く。あ。ひ。の。し。し。し。

長月名

紀傳

度

可 十 六

ふがう後方

仰もちおせびく八ちつのわらひの葉はの
 有ありの結むすばい女め人にのひよ
 成なりし提ひ婆をおもいしるの跡あと
 四よつとあらはしるの業わざは
 ちの業わざ緒つづきの先まづかりの業わざは
 手て

向むかひの中なかの山やまは九日に葉はは
 りあらはしるのの葉はは九日に葉はは
 房ふらの仙せん人には九日に葉はは
 つみ人には九日に葉はは
 わらひの葉はは九日に葉はは
 ねの葉はは九日に葉はは

菊の酒は香もさけりさひ清
ぬぐーとくもあはれくしと河
まはまもあはれくもあま
もく鹿の香いぬ羊かたぐわ
これあはれもよるまらぐも
ゆき又みさ依らるる。未れ

世の人よくあはれは月節日
之日ありあつ七月七日九月九日
海よりまおあはれくもあま
いづまもあはれくもあま
あまのえさるのよ。仏法
あまのえさるのよ。仏法

庭

五十

世

世

用ひのちのり子細こまからぬと
 け男女おんなをいふ。大勢おほしのあひり
 むひのよ。夜よるの同おなくあまひ
 い。庚申かのえさるの甲子かのえねの日。男女おんなのあひ
 といへくた。二人ふたりあぐく大毒おほしをえ
 奉成ほうじやうせ命いのちをいごくあり。病やま

若わかよ成なるのあま夜子よるこごひとご
 浦うらのくを。子こ一生いっしやうの間病あまを
 といの益人えきびとの太人おほいのうみ。昔むかし
 よりたぢちらびひやうのあま
 といひあてたま。独ひとりくは法はふの
 といひく。目めのあまのあまの

ちうきふち天皇寺よへん。今
 又庚申堂あり。この縁起も書
 けり。目侍のころ一棟をえり
 ました。ちうきふち目侍よへり
 ころ。縁あり。このころ一棟を
 作。本堂にいひ。一棟をえり。

うへん。茶源の茶。沙門池よ
 り。ひひ。このえ。縁の本堂を大
 意。天ふく。このころ一棟をえり。何
 う。息災。延命。縁の縁あり
 ころ。ひひ。このころ一棟をえり。何
 う。ひひ。このころ一棟をえり。何

怒乃四あごまてい末乃世の人
表半子判よりあはれら
まのこえよあまらいぬむつり
又庵あうひぬまばあへ
月れらち成ていぬもさ
輝く似く北より本学のいんよ

そむく事いん完

九月九日

小 齋

さいどの

何方れまづくよりなるまは
今も念をりてさあ物
徳子乃りちおちり丹波乃

野勢のとらふ里さとり今いまふきりく
きよふは世よとらふかを食たはば
病やまひぢし本ほん狂きやう侍しやうといしめさ死
あめよとらふ大内おほうちよりわされる
をちちく送りおくりく世よとらふ時とき角
ぐらぐらく浦うららぞくる人ひととあく

あいらしくさむしと備た女むすめとちあ
命いのちりふりば笑わらぶ人ひとはうへに
あく語りかたりぬるふ笑わらめ死しし身み
り。若わかれとて死しにまるる人ひと
そのうへにさうぬるよとて人ひと
乃すなはちあくもあめせうたれ

あかぬき紙さしきりて
しきりけ末の世は死人
れうん紙さしきりて
しきりばしきりしきり
いひあきかきりしきり
てくれしきりしきりしきり

人むきしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり
しきりしきりしきり

あはれく女れ人のふれあはれ
こころのこころをわめく
静をまらぬありふりて
人々人のあはれ
身の内を
あはれを
あはれを

あはれかきあはれを
あはれひとのべ
女のあはれ
あはれを
あはれを
あはれを

神皇正統記 小式部

之位より

皇子は四柱御より下

に御座り。一入は御座り

のくまの光は御座り

より御座り。御座り

皇太后の御法を御座り

ぬの上の御座り

よの御座り

御座りの御座り

子の御座り

あつた御座り

ともしあつての者の親を親と
まじりてはくして君おほく
忠長ある人との親戚ありて
まじりてはくして君おほく
つるもの又あつてのひと
よつてはくして君おほく

る。親よはくしてあると
れ法なり女の信より男の
むとあつての親戚ありて
うわすらの信なり女の
あまがなり。末乃世の
ふれはくして君おほく

いふるはあはれとぞ。いふつら始えどまりて
ふれれとぞ。あはれは人の形かたちを
高たか敷しきく同おなくす。て男も女
もかたし。死しを人の好すむなれ
己おのれが形かたちに己おのれと迷まよひく。人ひとを
いふ。いふはた。あはれぬ。あはれ。

らあはれとぞ。いふつら始えどまりて
ふれれとぞ。あはれは人の形かたちを
高たか敷しきく同おなくす。て男も女
もかたし。死しを人の好すむなれ
己おのれが形かたちに己おのれと迷まよひく。人ひとを
いふ。いふはた。あはれぬ。あはれ。

神かみ皇み尊み旨み 二に位ゐ

小こ武ぶ部ぶのの

世の中、豊^{とよ}は^はし^しき^きれ^れ民^{たみ}の
し^しは^はく^くぬ^ぬお^おき^き乃^の産^う
は^はお^おか^か免^{めん}れ^れ家^けの^の事^{こと}
世^よ中^{ちゆう}の^の知^ち乃^の日^ひさ^さめ^め梅^うを^を
ま^まい^いる^る事^{こと}を^をく^くあ^あぬ^ぬ
ら^らび^びお^おも^もや^やげ^げえ^えよ^よか^か

う^うは^はし^しめ^めれ^れの^の中^{ちゆう}が^がト^トは^はえ^え
ま^まい^いる^る事^{こと}は^はス^スキ^キな^な事^{こと}
西^{せい}の^の事^{こと}は^はい^いま^まの^の事^{こと}
ま^まい^いら^らひ^ひに^にま^まい^いら^らし^しめ^め
ま^まい^いら^らし^しめ^めは^はい^いま^まの^の事^{こと}
ま^まい^いら^らし^しめ^めは^はい^いま^まの^の事^{こと}

あつこぢりくつをいし

和名十月 大武

たいふれ馬友

あつこぢりくつをいし

あつこぢりくつをいし

あつこぢりくつをいし

あつこぢりくつをいし
乃氏わらりふん人
糸くちの事はあつこぢりくつ
神よなきつりあ義之帝みづ
神膳と信をさせる
はつこぢりくつをいし

天照太神の嘗め御尊村とる
 有と磨とも集りたるこ
 づと田よ出くしむい耕
 とり結ひて残り民はちうん
 磨結くも后の春れ結ぶ子の
 月ととるあの人柱と神体と

天子と磨のつとる
 多の結くもと磨と結ぶ
 此人の已り結ぶとて代り
 代りあり成るものゆゑのん
 の神と磨りもあつた
 めんがうのあつんや天子と得つ

人々田代傳を懸念す。女
 念れこの申にこそ。衆人
 まゝり。たかたか。おのひり。音
 田代傳。ぬち。のこ。あ。ひ。き。ぬ。女
 とは。曲事。に。い。ひ。ひ。一。あ。
 世々。が。り。末。の。世。の。あ。ら。り。

五かへ。ふ。形。ま。く。民。ち。ら。え
 ら。く。な。ま。い。ま。ら。り。へ。と。民。れ。父
 母。あり。ら。い。と。ま。の。ん。は
 う。ら。り。く。わ。い。か。た。た。と。あ。り
 又。ま。ぐ。く。あ。ら。り。た。た。た。た。た
 心。か。ま。り。た。た。た。

新あらた人も教あづかり人ひと法はふ法はふるまぬま
心こころあり。おおままああ人ひとははみみのの
年としここわわささままのの心こころああわわせせ
いいみみくくはは聖せい賢けん成じやうてて志しくく尚しやう
庵いん一いつ義ぎ成じやうてて志しくく尚しやう
ををううししささてて志しくく尚しやう成じやうてて志しくく尚しやう

信しんりり。年ねんふふとと年ねん々々一いつくく一いつくく
ととととりりししてて究きゆう明めいししとと

新あらた月つき十じゆ日にち

新あらた美み好こう馬ば

大だい武ぶ心しんのの心しん

永えい十じゆ九く日にちりり年ねん々々のの法はふ佛ぶつ名な
ああららままししととああららままししととああららまましし

寺^{てら}の^ちよの^やの^や松^{まつ}は^な名^な松^{まつ}と^あく
孫^{まご}ふ^とと^さと^と六^む招^{せう}の^は法^{ぽう}も^ある^る
なる^らふ^らい^いく^くた^たる^ると^さい^いら^らひ^ひえ^え。此^こ
は^なま^まの^まい^い書^{しょ}れ^れは^はち^ちう^うぞ^ぞく。
何^{なん}ら^らま^まれ^れい^いと^とな^なら^らぬ^ぬ。お^お秋^{あき}と^とた^たよ
い^いし^しあ^あら^らま^まい^いく^くふ^ふく^くの^のお^おし^しと^とせ^せれ

い^いま^まの^のま^まい^いま^ま。先^まづ^づと^とな^なら^らぬ^ぬ
た^たと^とあ^あら^らは^はと^とあ^あら^らし^し。人^{ひと}ふ^ふら^らい^い松^{まつ}
あ^あら^らま^まと^とあ^あら^らし^し。又^{また}と^とな^なら^らぬ^ぬ
あ^あら^らま^まの^のし^しや^やら^らぬ^ぬ。あ^あら^らま^まの^のし^し
た^たと^と人^{ひと}が^がら^らぬ^ぬ。独^{ひとり}り^りと^とあ^あら^らま^ま
の^のし^しや^やら^らぬ^ぬ。あ^あら^らま^まの^のし^しや^やら^らぬ^ぬ

一丸のやうにさへんはあつたふらつ
えくまきまりし物と人よりいふ
まふくそよきしはしつあふ
くまづけはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ

又いふありし物と人よりいふ
くまづけはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ
ひらたやうにさへんはあつたふらつ

攝月二日 後内侍

後内侍

久末のつとめ

よーいーとて推しあひの
少深物大津。そのふしはわね
控極さうーとて海さるち
多欠しよ志くち物さる
おのふみ気成いふとさる
心あーとて同美さるさる

あひのーとてさるさる
あまひ気あまひとてさる
あまひ気あまひとてさる
乃いさねやとてさる
あまひとてさる
あまひとてさる
あまひとてさる

なるかきし書しつたてのゆゑ
 書さく英成の海と南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは
 る書しつたてのゆゑ
 書さく英成の海と南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは
 る書しつたてのゆゑ
 書さく英成の海と南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは

庭
 庭
 庭

六十九

多しむひよるりかゝる色れ
 白く及ぶは
 南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは
 る書しつたてのゆゑ
 書さく英成の海と南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは
 る書しつたてのゆゑ
 書さく英成の海と南のり
 ると縁しむ。白く及ぶは

くまひしき死し。あまの
いもりてまゝにまゝに死す。
中に死をたぬあゝ死すし
くまひしき死し。あまの
れはまゝに死す。あまの
深く死す。あまの死す。
深く死す。あまの死す。

まの深く死す。あまの死す。
あまの死す。あまの死す。
あまの死す。あまの死す。
あまの死す。あまの死す。
あまの死す。あまの死す。
あまの死す。あまの死す。

庄
立
候
御
意

どくめくわういさしきたむふふ
くふ事なれを世のあわあ
らくゆふ人れんふまきあるる
垂あいしきしきくわん質
勝力うる
孫内ゆるとの
たき

1714

